


タンザニア連合共和国の研究機関と酪農学園大学による国際共同研究の採択が決定。

共に「知」を総合する科学技術協力～2022年度採択結果の発表

国際協力機構（JICA）、科学技術振興機構（JST）、日本医療研究開発機構（AMED）の三者が実施する「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）※」において、今年度、北海道地域の酪農学園大学の事業が新たに採択となりました。

本事業は、地球規模の感染症課題の解決に資する研究となっています。ブルセラ病と人獣共通結核は世界に広く分布する人獣共通感染症です。人には、乳製品の摂食や動物との接触により感染します。また、家畜が感染すると流産や乳量減少等が起こり経済被害をもたらします。開発途上国では、予算やセクター間連携が不十分であるといった理由から、これを十分に制御できておりません。本事業では、感染症の伝播と人の経済活動を定量化したシステムダイナミクスモデルを構築します。仮想空間でのシミュレーションによって、疾病制御に至るレバレッジ・ポイント（てこの支点）を見つけ、デジタル技術でそのポイントに関する教材を作成し、ナッジ（行動経済学）を取り入れたコミュニティ教育と官民連携を推進することで住民の行動変容を起こし、感染の低減を目指します。

大学の先生へのご取材も調整可能ですので、是非ご検討ください。

日本側研究機関	相手国研究機関	事業名	SDGs 項目
酪農学園大学 研究代表者： 蒔田 浩平 教授	ソコイネ農業大学	ワンヘルス・教育・官民連携による顧みられない人獣共通感染症介入の共同デザインに関する研究開発 (感染症領域)	

<※「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」とは>

SATREPS は、外務省と文部科学省の支援のもと、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）と JICA が連携して実施し、日本の優れた科学技術と ODA との連携によって、開発途上国との科学技術協力、科学技術外交を推進するプログラムです。環境、カーボンニュートラル、生物資源、防災および感染症といった地球規模課題の解決に向け、課題の解決につながる新たな知見・技術の獲得やイノベーションの創出、さらには開発途上国の自立的な研究開発能力の向上と課題解決に資する持続的活動体制の構築を図ることを目的としています。2023年度は、12件の事業が採

択とされました。2008年度の事業開始以降、採択事業数は計191件、実施国は56カ国となります。

2023年度「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」新規採択案件の決定について：https://www.jica.go.jp/press/2023/20230518_41.html

SATREPS 概要：<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/summary/index.html>

【本件に関する問い合わせ先】
JICA ガバナンス・平和構築部 STI・DX室 中島由希子 TEL 03-5226-8105 e-mail : gpgsd@jica.go.jp